

フォークリフトの事故事例から学ぶ！原因と対策

フォークリフトは出荷業務には欠かせないものです。製品の移動やトラックへの積み込みや積み下ろし等、とても便利なものですが、「ちょっとした油断」や「思い込み」から事故がおこるととても危険なものでもあります。今回はフォークリフトの事故事例とその原因・対策を紹介したいと思います。

事故事例 1 構内で歩行者がひかれ死亡



原因

- ・高い荷物を積載し前方の視界が悪かった
- ・誰もいないと思い込み前方運転をした

対策

- ・視界が悪い時は後方走行をする
- ・走行時はブザー音を鳴らし周囲に知らせる

事故事例 2 急旋回し横転、死亡



原因

- ・スピードを出したまま旋回した
- ・荷物を高く上げた状態で走行した

対策

- ・制限速度を守る
- ・カーブでは十分減速する
- ・荷物は低い位置で走行する

事故事例 3 リフトしたパレット上で作業、墜落した



原因

- ・リフトしたパレットの上に乗って作業した

対策

- ・パレット上で人を乗せて作業をしない
- ・高所作業には専用の作業台や高所作業車を使用
- ・やむを得ず専用作業台を使用する場合は、手すりや安全ベルトなどの安全対策を徹底する

事故事例 4 マストとヘッドガードの間に挟まれ死亡



原因

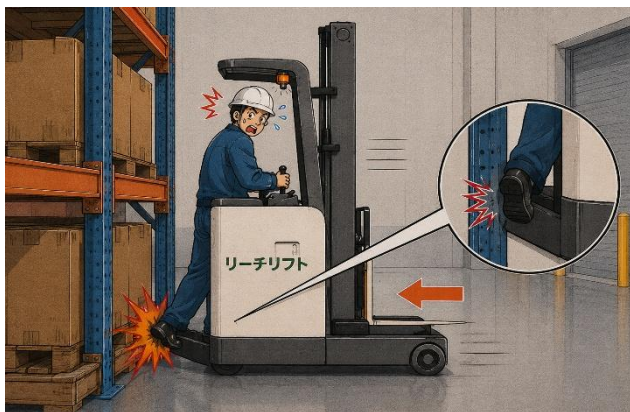
- ・崩れそうな荷物を運転席から身を乗り出して直そうとした
- ・リフト操作中に危険箇所へ身体を入れた

対策

- ・荷物を直す場合は、フォークを地面まで下げ 駐車ブレーキを引き、フォークリフトから降りて行う
- ・エンジンは必ず停止する

事故事例 5 リーチフォークリフトでバック走行中にリフトとラックの間に足を挟まれ怪我

※過去に柿原工業で起きた事例です



原因

- ・足を車体の外へ出したまま走行した
- ・後方の確認不足

対策

- ・足や身体を車体の外に出さない
- ・運転者は進行方向を十分確認する

① 荷物の正しい取り扱い ②積載重量・高さの遵守 ③荷崩れ防止の徹底 ④教育とルールへの遵守

フォーク先端からはみ出さない ✓ 荷物はフォークの根元まで確実に差し込む ✓ 急発進・急ブレーキ・急旋回をしない ✓ 荷物は低い位置で走行する	× 超過 ○ 適正 ✓ 最大積載重量を超えない ✓ 高く上げすぎない（目安：フォーク上昇時は視界が確保できる高さまで）	✓ ラップ巻きやバンド掛けなどで荷を固定する ✓ 不安定な荷は作らない、運ばない	安全ルールの例 ・指差呼称の実施 ・一時停止の徹底 ・合図のルール ・点検の実施 教育・訓練の実施とヒヤリハットの共有で、安全意識を高める
--	---	---	--

フォークリフトの運転に限らず、いろいろな作業や行動の事故事例を知り、原因を理解し、対策を実践することはとても重要なことです。一人ひとりの意識と行動が事故を防ぎます。ゼロ災害へ！

ご安全に！！